

『鳴滝紀要』販売分

号	刊行年	掲 載 論 文 名	価 格
7	1997	ミニチュア民族誌の構想 -シーボルトがくれたアイディア-	1,500円
		シーボルトと川原慶賀 -『人物画帳』をめぐる-	
		シーボルトPh.F.von Sieboldの日本追放解除に関する一考察	
		シーボルトとロシアの対日開国政策(3) -ブランデンシュタイン家文書調査報告-	
		中山文庫の異国船漂着関係資料について(2) -安永元年の事例を中心に-	
10	2000	中野忠雄輯「三角算秘傳」について	2,000円
		私信にみられるオランダ領東インド渡航前のシーボルトの動向について -ブランデンシュタイン家文書調査報告-	
		資料紹介 シーボルト再渡来時の『日本植物観とライデン気候馴化園』	
		資料紹介 泉屋家文書について	
		資料紹介 オランダ通詞本木氏の諸様相 -庄左衛門正栄を中心に-	
11	2001	外科資料蘭文断簡 その一 外科問考	2,100円
		『広東出し船一件諸書留』について	
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1822年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳(1)	
		シーボルトのアイヌ・コレクション -ライデン国立民族学博物館所蔵品を中心に-	
12	2002	天文学関係蘭文断簡について(上)	2,200円
		シーボルト記念館所蔵の点眼筐の調査報告 -伊東昇迪がシーボルトから贈られた点眼筐-	
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1822年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳(2)	
		シーボルトと日本の楽器 -シーボルト著『日本』所収「楽器図」を中心に-	
13	2003	『江戸番通詞江戸逗留中勤方書留』について	2,800円
		天文学関係蘭文断簡について(2)	
		外科資料蘭文断簡 その二 本木正栄の医書	
		シーボルト記念館所蔵泉屋家文書「オランダ船貿易品関係史料」について	
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1823年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳(1)	
		資料紹介 フォン・ブランデンシュタイン家所蔵シーボルト関係文書「長崎近郊の鳴滝にある私の別荘」	
14	2004	シーボルトが作成したデータペーパー(標本整理紙)について	2,000円
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1823年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳(2)	
		中山文庫の異国船漂着関係資料について(3) -享和元年の事例を中心に-	
15	2005	シーボルトに提供した日本人の報告資料 -最上徳内の報告した『蜜蜂』資料の紹介によせて-	2,500円
		アレクサンダー・フォン・シーボルト略年譜と日本政府との雇傭関係史料について	
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1823年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳(3)	
		資料紹介 フォン・ブランデンシュタイン家所蔵文書 シーボルト自筆草稿『日本の自然と日本人の生きた姿』	
16	2006	シーボルト記念館所蔵の眼科手術器具について -伊東昇迪がシーボルトから贈られた眼科内障機器-	2,300円
		貿易都市長崎の祭り「長崎くんち」	
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1824、1825年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳(1)	
		研究ノート:新たに発見されたシーボルト鳴滝別荘に関する記述について-古賀十二郎著「シーボルト叢考」を中心に-	
		中山文庫の阿蘭陀通詞分限帳について -天保九年及び天保十三年の分限帳を中心に-	
		『薬品応手録』の原本と写本	
17	2007	シーボルトと中津	2,700円
		シーボルト記念館所蔵の「阿蘭陀草花鏡図」とその背景について	
		シーボルト、ビュルガー、川原慶賀と日本の魚類学	
		阿蘭陀通詞中山氏と庄内藩医中山氏	
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1825-1827年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳	
		シーボルト記念館所蔵資料について	
		史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(1)	
18	2008	フィレネウフェの花嫁-外国人女性の来航をめぐる日蘭の認識と交渉	2,000円
		北村元助と動植物学への貢献(その一)	
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1826年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳	
		シーボルトの門人・交友者	
		史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(2)	

号	刊行年	掲 載 論 文 名	価 格
19	2009	北村元助と動植物学への貢献(その二)	1,000円
		フォン・ブランデンシュタイン家所蔵 1827-1829年 シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳	
		日高家資料の寄贈報告	
20	2010	ブランデンシュタイン家所蔵、1825年、1826年シーボルト書簡の翻刻並びに翻訳(補遺1)	1,000円
		日高涼台「異邦産論」について	
		日高家資料の翻刻一文芸資料を中心にー	
		史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(3)	
21	2011	本木良永訳『世界四大洲新地図帳』付箋の解説ー泉屋家文書との関連においてー(上)	1,000円
		ブランデンシュタイン家所蔵、1825年、1828年、1830年シーボルト書簡の翻刻並びに翻訳(補遺2)	
		シーボルトの子孫・楠本家伝来の短冊	
		史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(4)	
22	2012	本木良永訳『世界四大洲新地図帳』付箋の解説ー泉屋家文書との関連においてー(下)	1,000円
		ブランデンシュタイン家所蔵シーボルト関連書簡の翻刻・翻訳によって得られた新知見について	
		シーボルト記念館の古写真資料	
		史料紹介 中山文庫「書留帳」	
		史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(5止)	
23	2013	シーボルトは富士山などを何時どのように測高したか	1,000円
		門人たちの染料に関する3つのオランダ語論文の翻刻と翻訳	
		オランダ通詞にみる長崎地役人の「立入」について	
		史料紹介「大里詰目録」(1)	
24	2014	シーボルト研究の創始者呉秀三	1,200円
		伊東昇迪「瓊海雜集」の紹介並びに翻刻	
		〈オランダ通詞研究ノートⅡ〉 近世長崎における異文化交流とオランダ通詞ー中山作三郎とシーボルトの場合ー	
		史料紹介「大黒詰目録」(2)	
27	2017	シーボルト編「日本植物目録」改訂稿について(下)	1,400円
		「シーボルトと北斎」 ブランデンシュタイン城文書に確認する新出北斎6点から	
		シーボルト、ミハエリス、スクリバの明治ー九年蝦夷見聞ー ー明治ドイツ人による蝦夷植民地化とアイヌ研究のまなざし	
		シーボルト書簡の新発見 ー発見の経緯とその意義	
		近世中後期における長崎・出島の労働者について	
28	2018	ミュンヘン五大陸博物館所蔵「鳴滝の家屋模型」に関するシーボルト自筆の記述について	1,700円
		志筑忠雄「三種諸格」の資料的研究	
		男爵アレクサンダー・フォン・シーボルト「古き日本に関する回想 第2部 ー英国の旗の下に 1862年～1870年ー」(1)	
		長崎東濱町井手禎蔵の日記と川原慶賀	
		日高涼台研究序説 ー主に牛痘法普及における業績について	
		近世後期長崎における日雇の一側面 ー「御書附写」にみる日雇の実相について	
		〈オランダ通詞研究ノートⅣ〉 オランダ通詞西家史料について	
		史料紹介Ⅰ 伊東救庵「江戸御尋人高野長英私宅江立寄申一件」 史料紹介Ⅱ 石井信義「明治七年日記」(一)	
29	2019	泉屋家旧蔵「オランダ語文法書」と志筑忠雄「助詞考」	1,500円
		男爵アレクサンダー・フォン・シーボルト「古き日本に関する回想 第2部 ー英国の旗の下に 1862年～1870年ー」(2)	
		1830年12月、帰国したシーボルトへ其扇が送った最初の手紙	
		史料紹介 伊東昇迪「寄陽日簿」ー翻刻及び註解ー	
		特別展報告 高島秋帆の周辺ー系譜と晩年の活動を中心にー	

号	刊行年	掲 載 論 文 名	価 格
30	2020	シーボルト記念館所蔵泉屋家文書「脇荷貿易品史料」について	2,000円
		江戸滞在中のオランダ商館長ドゥ・ステュルレルとシーボルトの関係(1) ードゥ・ステュルレル「江戸参府日記」に基づく諸考察を中心にー	
		男爵アレクサンダー・フォン・シーボルト「公爵伊藤博文に関する個人的回想」	
		長崎通詞について ー史料にみる阿蘭陀通詞の実態ー	
		史料紹介(1)伊東昇弼「西游雑記」	
		史料紹介(2)石井信義「明治七年日記」(二)	
31	2021	江戸滞在中のオランダ商館長ドゥ・ステュルレルとシーボルトの関係(2) ードゥ・ステュルレル「江戸参府日記」に基づく諸考察を中心にー	1,300円
		アレクサンダー・フォン・シーボルト『東亜政論ー1898年7月から1900年9月までー』(1)	
		報告 横山家資料の寄贈について	
32	2023	【資料紹介】シーボルト第2次滞在期に絆を深めたおたき、おいね母子との往復書簡	1,500円
		シーボルト筆の1828年9月27日付の業務引継の文書 A. 自然科学 ー住友友聞から入手した銅標本ー	
		アレクサンダー・フォン・シーボルト『東亜政論ー1898年7月から1900年9月までー』(2)	
		史料紹介「高野長英一件 大槻俊斎口上」	
33	2024	山崎美成『夜談録』収載の「シーボルト」記述からの一考察 【資料紹介】山崎美成著・鍋島直孝補「夜談録 嘉永七甲寅 冬」	1,500円
		史料紹介「失物児杜駿方集」	
34	2025	鳴滝塾の模型調査の報告と検出遺構の再整理	1,200円
		研究ノート「シーボルト事件後の門弟の交流について ー戸塚静海を中心にー」	